

# 可視化情報学会誌及び可視化情報学会論文集共通原稿見本

ロゴのスペース

原稿は上下 247mm, 左右 170mm の中に納める.

表題は 3 行目から始める. 左右マージン: 25mm, 上下マージン: 20mm

題名にはゴシックを用い, 主題 1 行は 27 文字以内  
文字の大きさは 16 ポイント程度\*

副題は行を改めて 14 ポイント程度

可視化 太郎<sup>1)</sup>, 情報 花子<sup>2)</sup>, 学会 一郎<sup>2)</sup>, 社団 次郎<sup>2)</sup>

An Example of the Manuscript for Journal of  
the Visualization Society of Japan

Subtitle

Taro KASHIKA, Hanako JOHO, Ichiro GAKKAI and Jiro SHADAN

## ABSTRACT

For the convenience of the authors, an example of the manuscript for Journal of the Visualization Society of Japan is shown. 論文の場合, 150 語程度の英文 ABSTRACT および Keywords を入れる. 文字の大きさは 10 ポイント程度とし, 字体は Century が望ましい. 行間は 1 行分 (シングルスペース) とする. 150 mm

Keywords: Visualization, Digital image processing (キーワードの先頭文字のみ大文字)

## 1. 緒 論

これは可視化情報学会誌および可視化情報学会論文集の第 1 ページの体裁見本となっている. 著者は「投稿要領」を熟読の上, できるだけこのような体裁に原稿を仕上げた上で投稿することが望ましい.

## 2. 文字および改行

### 2.1 文字の大きさと改行

著者名は 11 ポイント程度, 1 行に 36 字以内とし, これを越える場合は行を改める. 著者名欄は中央揃えにする. 本文の文字の大きさは 9 ポイント程度, 25 字 × 48 行程度, 2 段組とし, 段間は 10 mm 程度空ける.

章の間は 2 行空け, その中央に章名を 10 ポイント程度の大きさと記す. 節の間は行を空ける必要はない.

### 2.2 字 体

原稿には Table 1 に示す字体またはこれらに準ずる字体<sup>1)</sup>を用いるのが望ましい. また, 参考文献を引用する場合には, 次のようにする<sup>2)</sup>.

Table 1 Sample of table. (先頭のみ大文字)

題名	章名	節名	本文	英文題名	英文著者名
	ゴシック		明朝		Times New Roman

## 4. 図 表

本文中の図表の表記にはゴシックの字体を用いる. 図

\* 原稿受付 2000 年 1 月 1 日

1) 正会員 可視化情報大学 可視化技術研究所(〒114-0034 東京都北区上十条 3-29-20, E-mail: info@vsj.or.jp)

2) 正会員 可視化情報(株) 技術本部

図の中に実験条件, 撮影条件などを英語で記入する

Fig.1 Sample of figure arrangement. (先頭のみ大文字, 最後にピリオドを加える)

表の見本を Fig.1 と Table 1 に示す. キャプションは表の場合は上部に, 図の場合は下部に記す. キャプションの先頭のみ大文字とし最後にピリオドをつける.

## 3. 数 式

数式は中央揃えで記入し, 式番号を右揃えで記入する.

## 参 考 文 献

- 1) 可視化太郎, 情報花子: 可視化情報学会における論文の書き方, 可視化情報, Vol.100, No.1000 (1998) pp.11-12.
- 2) Kashika, T., Hanako, J.: An example of the manuscript for J. Visualization, J. Visualization, Vol.10, No.5 (1999) pp.10-15.
- 3) 永野進: 学会誌掲載論文のオンラインジャーナル化への試行について, 可視化情報学会誌, Vol.20, No.79 (2000) p.100.
- 4) 高藤亮一, 山中昭央, 小原哲郎, 蔡品, 大八木重治: 回折する衝撃波の挙動に関する研究(第 1 報, 衝撃波の回折と反射過程), 日本機械学会論文集(B), Vol.65, No.639 (1999) pp.3602-3607.
- 5) Ohayagi, S., Obara, T., Nakata, F., Hoshi, S.: A numerical simulation of reflection processes of a detonation wave on a wedge, Shock Waves, Vol.10, Issue 3 (2000) pp.185-190.

代表者の連絡先 (E-mail アドレスは省略しても構わない)